



外国人をもっと惹きつけるには

坂崎 リナ 氏

ホテルエミシア札幌
料飲部 カフェレストラン カフェ・ドム

インドネシア共和国ジャカルタ市生まれ。1994年、来日。
2001年札幌大学経営学部経営学科卒業、ホテル横浜ベイシエ
ラトンホテルに入社。02年同ホテル札幌へ。勤務の傍ら北海
道大学経済学院現代経済経営専攻修士課程修了。14年、ホテ
ル名がホテルエミシア札幌に変更となり、現職。



北海道の自然がお気に入り

来日して25年です。アメリカ留学が多い中、私は「これからは日本の時代」と、経済発展の素晴らしい日本へ。大学受験資格を取って札幌大学に入り経営学を学びました。卒業後、外資系ホテルに就職し、働きながら大学院でホテルマネジメントを勉強しました。

日本の中でも北海道の自然が一番。インドネシアにも自然はたっぷりありますが、季節は雨期と乾期だけ。北海道の四つの季節を思う存分、楽しんでます。初めての冬はすぐ風邪を引きましたが、本物の雪にびっくり。冬の遊び、お祭りも多く、学生時代から「さっぽろ雪まつり」で雪像を作っています。インドネシアからの雪像づくりチームは、国際雪像コンクールで何度も入賞、優勝しています。シェフの氷の彫刻の技術を応用しているのです。春は桜が見事。北海道は一番遅く楽しめるし、五稜郭や札幌の円山公園など名所も豊富です。

先住民族は誇りです

職場で外国人旅行者から、お勧めの場所をよく聞かれます。まず自分が実際に行ってから紹介します。大学では初めてアイヌ民族について学び、白老町のポロトコタンにも行って自信を持ってお客様に勧めています。インドネシアは世界第4位の人口で、パダン、ダヤク、アスマット民族など先住民族がたくさんいます。多民族、多文化、いろいろな生活習慣があることを誇りに思います。外国人は少数民族、北海道ではアイヌにとっても関心を持っていますから、もっとアイヌ文化を発信すべきです。2020年4月に国立アイヌ民族博物館や公園がオープンするので楽しみにしています。

外国人旅行者お出迎えの最前線で思うこと

外国人旅行者を北海道へ呼ぶのなら、食事のイスラム対応がもっと必要です。なぜなら毎日、直接、関わるからです。来日した当初、インドネシアからカップラーメンを送ってもらってました。世界的に評判の日本のカップラーメンなのに、私は何が入っているかわからないので食べられない。もし、日本でハラル※のカップラーメンを作ったらヒット間違いなしです。ハラルの食品が買えるお店は、東京と九州にはありますが、札幌にはありません。同じイスラム教でも戒律が違いますし、外国人には菜食主義の人も多くいます。ですから、スーパーの食品でもレストランのメニューでも、調味料を含め添加物をきちんと日本語以外、少なくとも英語で表示してほしいのです。旅行中に安心して食事ができると分かれば長く滞在できるし、家族ぐるみでも来られるし、リピーターも増えます。「食」は大切です。

どさんこへのメッセージ

北海道の人に初めて接したとき、冷たいような内向的な印象を受けました。親しくなると違いますが。その経験から、せっかく外国人が来るのですからガードを緩めてもっと積極的に北海道の良さなり、自分たちを表に出していったらいいと思います。そうすればお互いにいろいろな情報を交換して、もっと知り合えます。おいしい食べ物も美しい自然も充分あるので、もったいないと思います。

今は、札幌に住み仕事をしているのは、神様から授かった運命かも知れない、と思っています。(談)

インタビュー日 2019年1月11日

※ ハラル
イスラム教の教義に従って調整された食品。